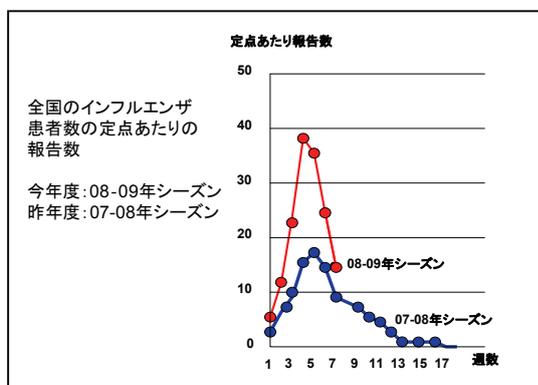




今シーズンのインフルエンザもピークを越えました

今シーズンは、昨シーズンに比べインフルエンザの罹患患者数が全国的にも多く（下図）、当院の職員からの発症も去年の2倍弱報告されています。2月の中旬にピークが来ましたが、現在は減少傾向に転じました。今年、タミフル耐性インフルエンザAソ連型（A/H1N1）が増加し、これから発生することが予測されている新型インフルエンザに対する不安要因ともなりました。



新型インフルエンザ対策

季節性のインフルエンザの流行時には、毎年院内での発症が避けられないことから、同様に新型インフルエンザの流行が起こると、阪大病院の中でも職員あるいは患者さんから新型インフルエンザが発症することも十分予測されます。そこで、阪大病院としても新型インフルエンザの流行に備えた体制作りが必要だと考え、病院長をはじめとする感染対策委員会において議論を重ねているところです。



今後の国内外の情報を得、動向をみながら対策を考えていきます。マニュアルは順次お知らせしていきます。新型インフルエンザ感染対策には地域を含め、病院全体で取り組まなければなりません。新型インフルエンザ対策の体制作りには皆様のご協力をよろしくお願いします。



手袋の適切な使い方とマナー

手袋は手をできるだけ汚染させないために使用しますが、使用時には気をつけなければいけないことがあります。それは環境に汚染を拡げないということです。手袋の表面は汚染しています。その汚染された手袋を着用したまま、皆が触れる共有部分（環境面など）を安易に触ると環境に汚染を拡げることになってしまいます。

院内のエレベーターで、手袋を着用したままボタンを押している人がいるという指摘を受けています。手袋の汚染はエレベーターボタンに移り、その次にボタンを押した方の手へと移っていくことになります。その手袋は汚染していない、きれいなままだという人もいません。しかし、手袋が汚染しているか、していないかは周囲の方にはわかりません。そのため手袋を着用したまま共有部分に触っている姿は他の人に不快感を与えます。手袋を着用したまま、院内を移動することはやめましょう。

手袋によって自分の手は守られているので、安易に環境面を触る傾向にあります。周りの人達-患者や他の医療者-も守るような手袋の使い方をしましょう。



手袋エチケット3ヶ条

1. 手袋をしたまま廊下を歩かない
2. 手袋をしたまま周囲環境に触れない
3. 一処置一手袋

